

男性用スーツ上衣の着心地と被服圧について

○小竹美香* 陳 東生** 山田智子*** 伊藤紀子****

(*鳥取大・院 **吉林工学院 ***奈良女子大・院 ****鳥取大)

【目的】 着心地のよい男性用スーツ上衣を設計可能とするために、被服圧を指標とした評価法の確立を目指し、着用実験による主観的評価と静立時および動作時の被服圧測定を行い、着心地を左右する部位およびその被服圧レベルを明らかにすることを目的とする。

【方法】 実験用スーツ上衣は、5種類の素材について3段階のサイズのもの15着を実験用試料とした。被験者は、92A5前後の成人男子10名である。着用実験は、肩先、肩甲骨、前後の腕付け根、上腕部および肘の6部位の静立時と動作時（前拳90°）の圧迫感と重さ、動きやすさおよび総合評価について被験者に回答させた。スーツ上衣の被服圧は、静立時および動作時の被服圧を圧迫感評価と同じ部位で測定した。そして、得られたデータを統計処理した。

【結果】 着用実験による主観評価の結果から、静立時の着用感は、肩先、前腕付け根、肩甲部の躯体部の圧迫感の大小に影響され、動作時の着用感は、背面の脇下および腕付け根と前上腕部の圧迫感の影響が大きい。このことは、これらの部位の静立時の被服圧や動作に伴う被服圧変動に顕著に現れた。